短期大学における専門的職業能力育成の特徴例

（文部科学省　平成21―22年度　先導的大学改革推進委託事業「短期大学における今後の役割・機能に関する調査研究」（平成23年3月31日　研究代表者　佐藤弘毅）より抜粋整理）

1．幼児教育の傾向

【調査方法の概要】

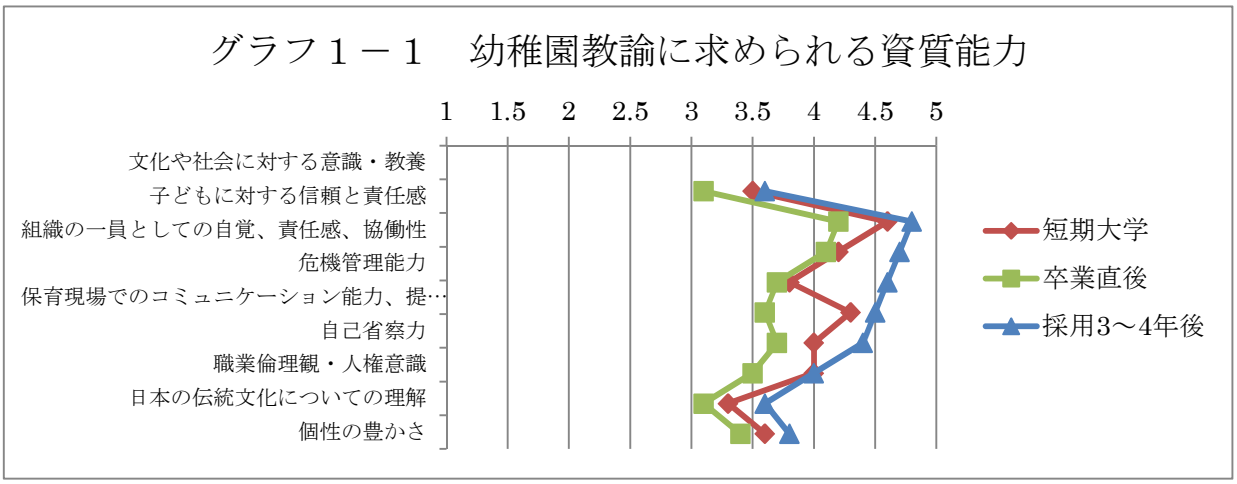
○幼稚園教諭養成に必要な能力を整理し、短期大学と幼稚園（就職先）双方に対して、共通して、重視する能力を抽出しこれを質問。（130 短期大学、392 幼稚園回答）

☆質問項目（７項目）

①幼稚園教諭としての資質能力、②総合的指導力、③個別的・具体的保育知識・実践力、④保護者・地域との関わり、⑤園内における協働性・関係構築性、⑥専門的知識・技術、⑦子育て支援力

○上記７項目は、それぞれ具体的な細目を設け、５段階（５＝非常に重視、４＝重視、３＝標準的、２＝あまり重視していない、１＝全く重視していない）の回答

（１）幼稚園教諭としての資質能力

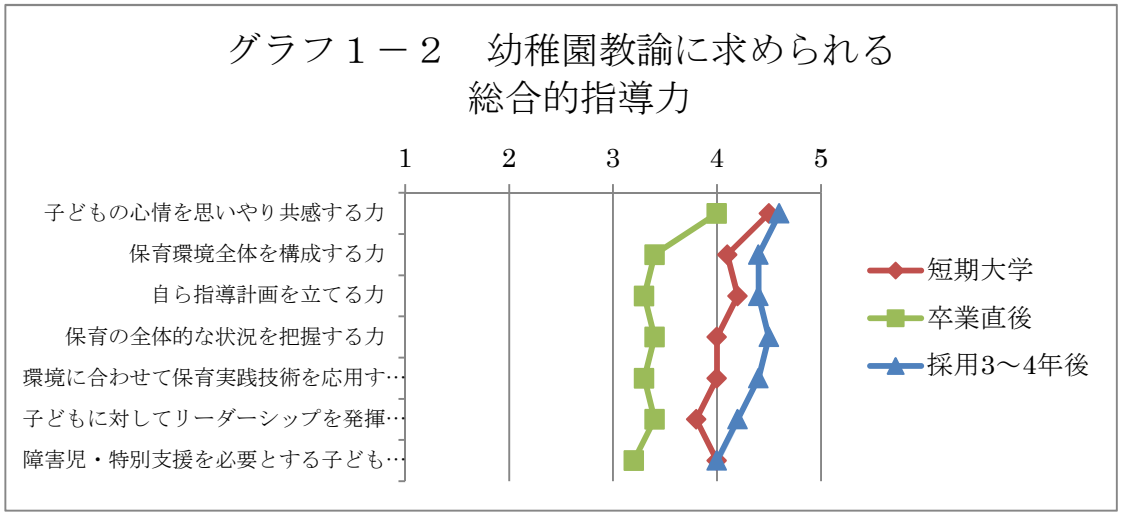


① 短期大学が重視する能力（以下①で表示）では、５段階の平均の高いものから順に、「子どもに対する信頼と責任感（4.6）」、「保育現場でのコミュニケーション能力、提案力（4.3）」、「組織の一員としての自覚、責任感、協働性（4.2）」

② 幼稚園（就職現場）から、卒業直後に獲得が期待される能力（以下②で表示）では、平均値が４以上のものは「子どもに対する信頼と責任感（4.2）、「組織の一員としての自覚・責任感・協働性（4.1）」。

③ 幼稚園（就職現場）から、採用後３～４年後に期待される能力（以下③で表示）では、前者２つはそれぞれ 4.8、4.7 と高いほか、「危機管理能力（4.6）」「保育現場でのコミュニケーション能力、提案力（4.5）」「自己省察力（4.4）」も高い。卒業時点で獲得がほとんど期待されていなかったものである。

（２） 総合的指導力



①では、「子どもの心情を思いやり共感する力(4.5)」、「自ら指導計画を立てる力(4.2)」、「保育環境全体を構成する力（4.1）」の順。その他も「非常に重視」は 30%程度以下であるものの、「重視」を含め 65%以上。養成校として上記総合的な指導力は当然重視している。

②では、「子どもの心情を思いやり共感する力（3.97）であり他も平均値は４に達していない。

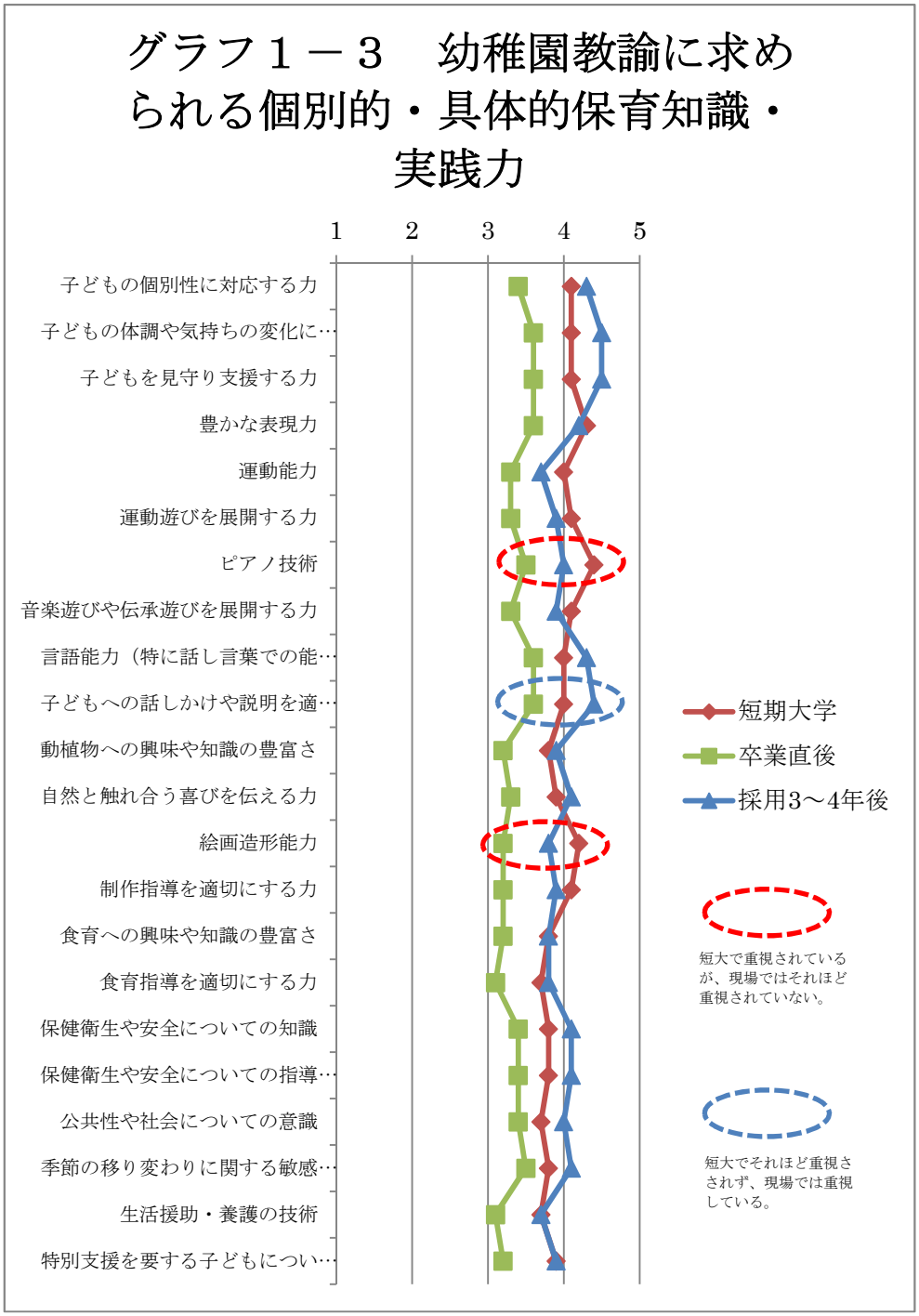
③では、採用後３～４年後には最も平均値の低い能力「障害児・特別支援を必要とする子どもへの対応力」でも 3.98 であり、それ以外は全て４以上である。最も獲得期待度の高い能力は「子どもの心情を思いやり共感する力(4.6)」。

（３）個別的・具体的保育知識・実践力

①では、高いものから順に「ピアノ技術（4.4）」、「豊かな表現力（4.3）」「絵画造形能力（4.2）」。「子どもの個別性に対応する力」「子どもの体調や気持ちの変化に応じて対応を変える力」「子どもを守り支援する力」「運動遊びを展開する力」「音楽遊びや伝承遊びを展開する力」「制作指導を適切にする力」も各 4.1 と重視。個々の子どもへの対応や臨機応変な対応よりも、音楽・造形表現などを重視して養成。

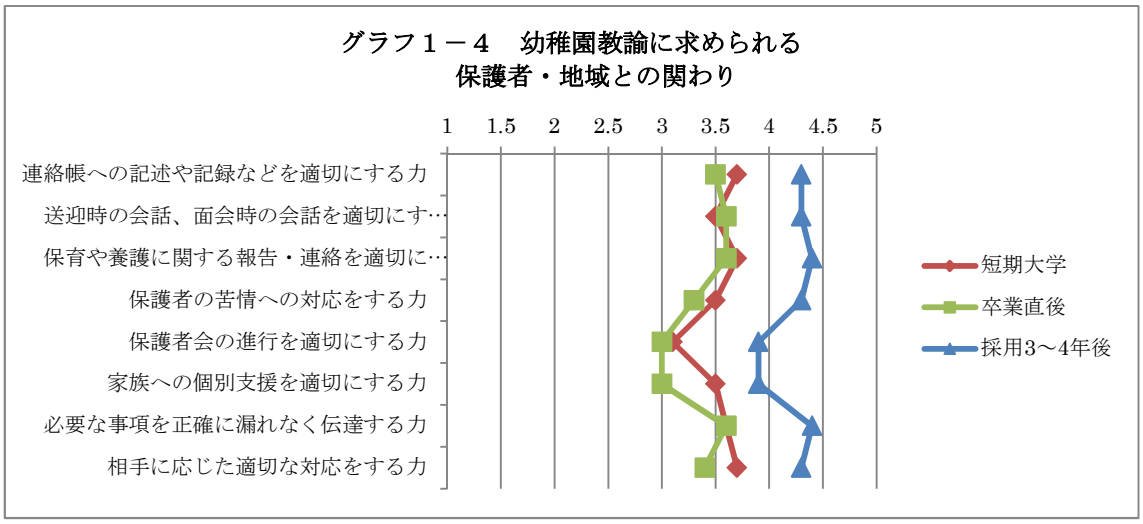
②では、いずれも平均値が４に達しない。「子どもの体調や気持ちの変化に応じて対応を変える力（3.6）」「子どもへの話しかけや説明を適切にする力」「言語能力」（ともに 3.58）の順。

③は、②で重視されるものの他に、「子どもを見守り支援する力（4.45）」「子どもの個別性に対応する力（4.31）「豊かな表現力（4.21）」「季節の移り変わりに関する敏感さ（4.1）」など多くの能力について４以上の期待度。



※各項目は、上から「子どもの個別性に対応する力」、「子どもの体調や気持ちの変化に応じて対応を変える力」、「子どもを守り支援する力」、「豊かな表現力」、「運動能力」、「運動遊びを展開する力」、「ピアノ技術」、「音楽遊びや伝承遊びを展開する力」、「言語能力」、「子どもへの話しかけや説明を適切にする力」、「動植物への興味や知識の豊富さ」、「自然と触れ合う喜びを伝える力」、「絵画造形能力」、「製作指導を適切にする力」、「食育への興味や知識の豊富さ」、「食事指導を適切にする力」、「保健衛生や安全についての知識」、「保健衛生や安全についての指導を適切にする力」、「公益性や社会についての知識」、「季節の移り変わりに関する機敏さ、自然の風物に関する興味関心」、「生活援助・養護の技術」、「特別支援を要する子どもについての知識」

（４）保護者・地域との関わり

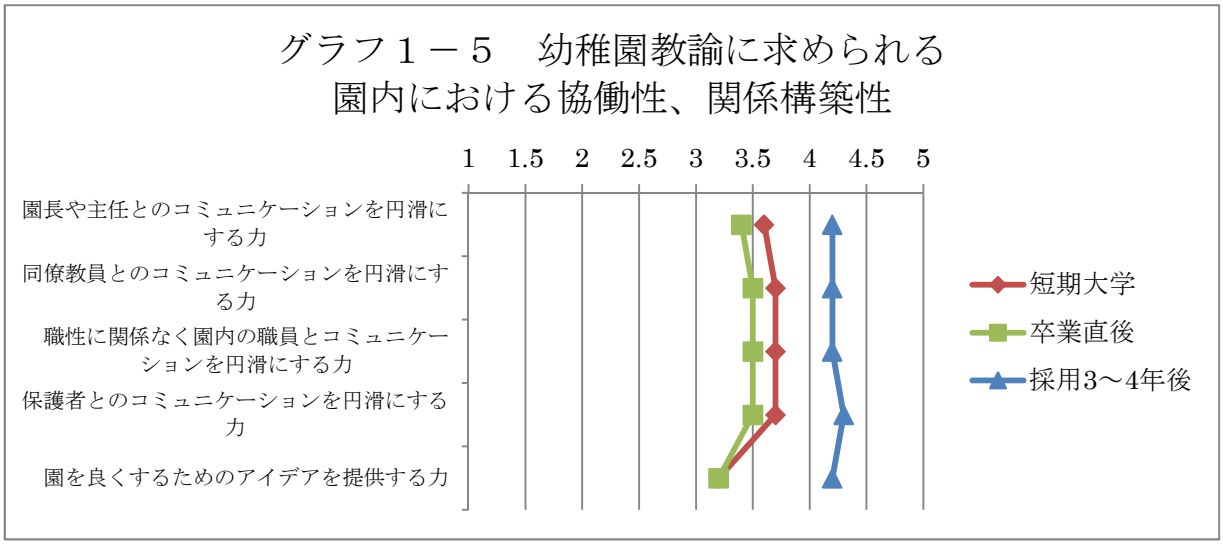


① では、どれも平均値が４に達していない。養成校の教育としてあまり重視されていないか、取り組み方が難しいと考えられている。

② では、どの能力の期待度も平均値が４に達せず、最も高いもので「保育や養護に関する報告・連絡を適切にする力（3.63）」。

③ では、「保護者会の進行を適切にする力」「家族への個別支援を適切にする力」を除いて、全て４以上となっている。

（５）園内における協働性、関係構築性

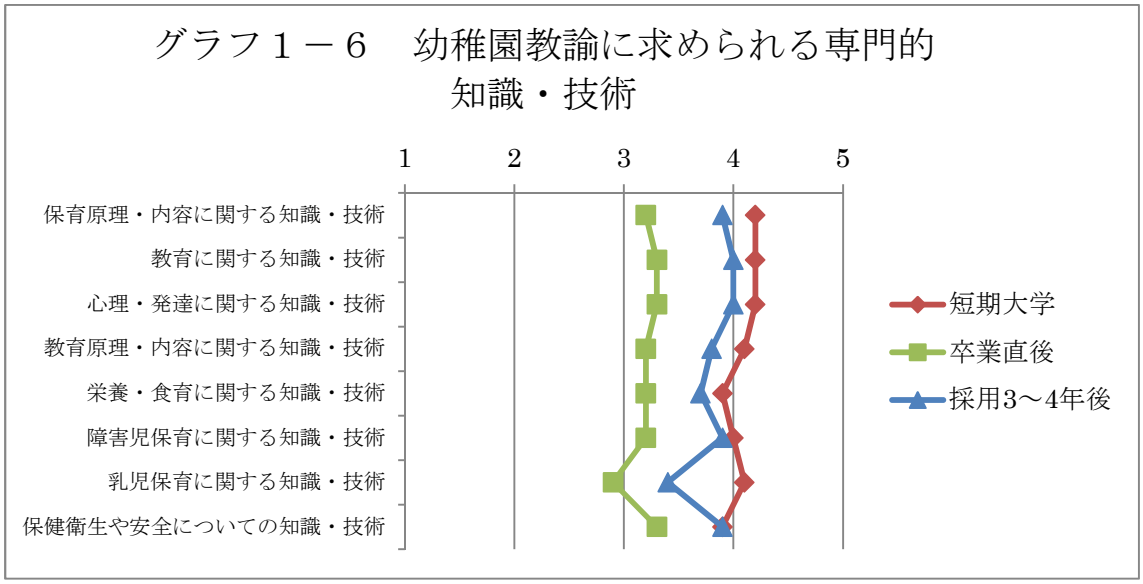


① では、いずれも平均値が４に達していない。園内での、子ども以外との人間関係構築に関しては短期大学の養成課程ではあまり重視されていない。現場に入ってからのほうが身につけやすいと考えられている可能性がある。

② では、①と同様。一番高いものでも「同僚教員とのコミュニケーションを円滑にする力（3.54）」。

③ では、<u>全ての能力について期待度が４を超える</u>。

（６） 専門的知識・技術

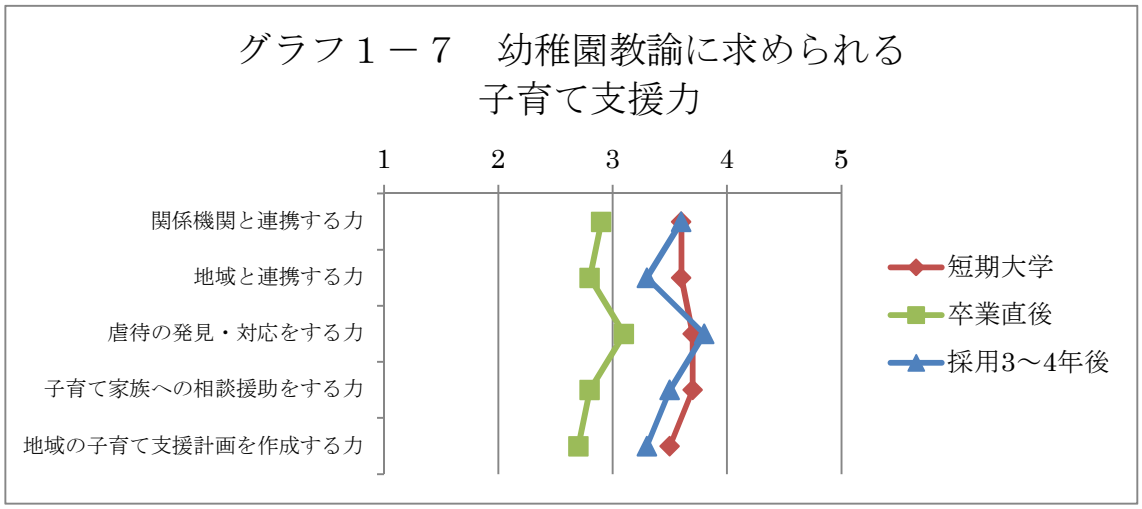


①では、どの分野についても平均値は高い。「心理・発達に関する知識・技術（4.2）」、「教育に関する知識・技術（4.2）」「保育原理・内容に関する知識技術（4.2）」「乳児保育に関する知識・技術（4.1）」「教育原理・内容に関する知識・技術（4.1）」の順。.

② では、いずれも期待度が低い。「教育に関する知識・技術」でも 3.29 である。

③は、どの能力に関しても平均値がほぼ４に集約。

（７）子育て支援力



① では、平均値はどれも４に達していない。

② では、期待度は最も高いもので「虐待を発見し対応する力（3.08）」であり、それ以外は平均値が３に達しない。

③では、いずれも３点台になり、「虐待を発見し対応する力」「子育て家族への相談援助をする力」などで「重視する」割合が高まる。

２．幼児教育の専門能力の育成とモデル・コアカリキュラム試行

（１）幼稚園教諭に必要な専門的職業能力の領域分類

質問紙調査を作成する際に参考にした、文部科学省平成 14 年度報告書「幼稚園教員の資質向上について－自ら学ぶ幼稚園教員のために」によると、幼稚園教員に求められる専門性は、以下９点を挙げている。

①・幼稚園教員としての資質
②・幼児理解・総合的に指導する力
③・具体的に保育を構想する力、実践力
④・得意分野の育成、教員集団の一員としての協働性
⑤・特別な教育的配慮を必要とする幼児（未入園児、障害を持つ幼児、外国籍の幼児）への対応力
⑥・小学校や保育所との連携
⑦・保護者・地域社会との関係構築力
⑧・管理職が発揮するリーダーシップ
⑨・人権に対する理解

上記分類と、本調査での７分類での結果を踏まえて、幼稚園教諭養成のための短期大学におけるモデル・コアカリキュラムを試行するものとして、仮に以下のように更に５つにまとめた５つの専門職業能力の領域を設定。

❶教員・社会人としての自覚と責任

幼児教育現場の組織の一員であるという自覚や責任感を持つこと、子どもや保護者の「モデル」としての教員という意識を持つこと、危機管理意識を持つこと、人権に対して正しい理解を持ちそれに基づく適切な言動がとれることが、教員としての基本姿勢となる。

❷子どもへの姿勢

子どもの全人的な成長発達を促すために、子どもに深い愛情を持って接すること、この時期の子どもの発達段階を理解し、年齢ごとの全体像をつかむと同時に、一人ひとりの子どもの内面理解ができ、健康面の変化の見極めを含む臨機応変な対応ができること、子どもへの全面的な共感をもって、適切な言葉と態度で関わることが重要である。

❸社会環境への関わり

子どもを支えていくためには、子どもに対する働きかけが一番であることは言うまでもないが、子どもを取り巻く環境、すなわち園内環境、保護者、地域社会などが安定した望ましいものである必要がある。幼稚園教諭はそのことを理解し、子どもを取り巻く環境がよりよいものとなるために、周りの人や関係機関とのコミュニケーションを積極的にとり、それらと協同してよりよい環境を作っていく必要がある。

❹専門的知識・技術・実践力

危機管理や子どもへの健康面での配慮に欠かせない保健衛生や安全に関する知識、子ども

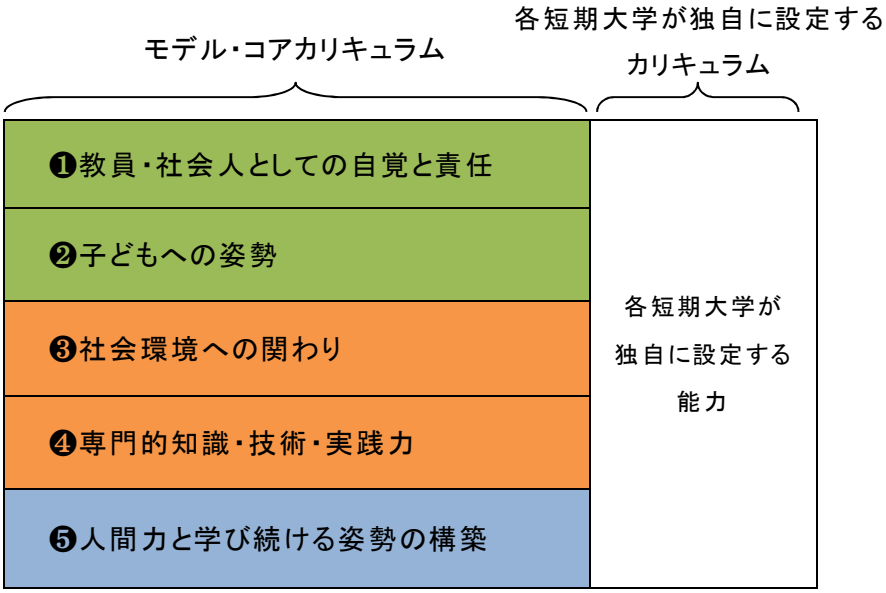
理解と関わり方の基礎となる発達心理学、教育心理学、教育原理、保育原理などの各理論、幼稚園教育要領に則り５領域について実際の保育を行うための保育内容・実践技術、特別な教育的配慮を有する子どもへの対応ができるための乳児保育や障害児保育、異文化理解教育などが必要である。

❺人間力と学び続ける姿勢の構築

自己肯定感を持ち個人として豊かな人間性を有すること、年齢を問わず相手の言うことを理解でき、自分の思いを適切に伝えることができる、すなわち適切なコミュニケーションがとれることなど基本的な人間関係のルールを知り、行動できること、健康であることが基本である。教員の人間性は人的環境として幼児に影響を及ぼすからである。また、日常生活では予測不可能な事象も起こりうるので、臨機応変にこれに対応できる能力も必要である。得意分野を持つこと、ボランティアなど多様な社会活動に興味を持って関わることなども望ましい。

（２）幼稚園教諭に必要な専門的職業能力の５領域に基づくモデル・コアカリキュラムの試行

上記の５つの領域に基づき次のようなモデル・コアカリキュラムを作成した。各領域における一般目標は、その領域全体の達成目標であり、その領域に分類される専門的職業能力について、短期大学卒業時点での達成目標を到達目標として示した。



❶教員・社会人としての自覚と責任

（一般目標）

幼児教育現場の一員であり、一社会人であることを自覚し、適切な言動がとれる。

【幼児教育現場の一員としての業務遂行力】

（到達目標）

① 教職の、他の職業との違いを明確に説明できる。

② 育ちの連続性を踏まえつつ幼児と関わる仕事の特徴を説明できる。

③ 教職に就くことを意識して日々の言動を行う。

④ 子どもの権利や親の人権に関して理解している。

【社会人としての業務遂行力】

（到達目標）

- 組織の役割について理解する。
- 幼児教育現場を職場組織として説明できる。
- 組織の一員としての自己の位置づけ（とその変化）を自覚する。
- 危機管理意識を持った行動ができる。
- 職場文化に関わる人権の諸問題を理解し、対応を説明できる。

❷子どもへの姿勢

（一般目標）

子どもの一人ひとりの内面理解に努め、共感をもって関わることができる。子どもの主体性を信頼し、生きる力の基礎が身につくようサポートする行動がとれる。

【一人ひとりの幼児理解】

（到達目標）

- どんな状況の子ども（他者）に対しても安定した気持ちで関わることができる。
- 一人ひとり（の子ども）の表情やしぐさ、つぶやきを丁寧に受け止め、共感し、健康面の配慮を含め、変化に気づくことができる。
- 一人ひとり（の子ども）に応じた言葉がけやサポートができる。

【発達段階に応じた幼児理解】

（到達目標）

- 乳幼児から小学校にかけての人間の心身の発達段階と課題を理解し、説明できる。自らの子ども観を持つ。
- 学年や学期ごとの子どもの特徴を知り、それに応じた支援方法をイメージすることができる。
- 発達段階に応じた言葉遣いができ、保育技術指導の方法をイメージすることができる。
- 発達段階や季節に応じた具体的な保育内容を立案計画できる。

【総合的保育力】

（到達目標）

- 子どもが社会性を育み、人間関係を構築する限度以上の危険がある場合を判断でき、それに対処できる。
- 保育の全体的状況を把握しようと意識する。
- 子どもの主体的な活動を尊重し、それに応じて保育内容を変更したり、逆に誘導したりすることの意義を理解する。
- 保育の全体状況の変化に応じた保育内容を立案計画、変更ができる。

❸社会環境への関わり

（一般目標）

自分の周りの環境と子どもの周りの環境の実態と変化を把握して、それらを良くするために自ら働きかけ、他者と協働しようとする。

【保護者との関わり】

（到達目標）

- 実習やボランティア経験、日常生活を通して保護者と子ども、保護者と幼児教育現場との関わりを観察し、保護者との関わりをイメージできる。
- カウンセリングマインドの意義を理解し、そのような心構えができている。
- 異年齢の人との適切なコミュニケーションができる。

【園内の教職員との関わり】

（到達目標）

- 実習やボランティア経験を通じて、園内の教職員の協働作業を理解する。
- 保育以外の園内業務を説明できる。
- 教員など目上の人と適切なコミュニケーションができる。
- グループワークができる。
- 報告・連絡・相談が適切にできる。

【家族援助】

（到達目標）

- 現代社会における家族形態や家族が置かれている状況を理解し、説明できる。
- 特別な配慮を必要とする子どもについて理解し、配慮の仕方を説明できる。
- 虐待の可能性がある子どもや保護者の発見の仕方を知り、援助方法を説明できる。

【関係機関との関わり】

（到達目標）

幼保、幼小、発達支援センターなどとの連携について理解し、説明できる。

❹専門的知識・技術・実践力

（一般目標）

具体的な保育内容や方法の基礎となる理論や実践の知識、実践的な保育技術を習得している。

（到達目標）

- 保健衛生や安全に関する考え方を理解し、事故時や衛生面での対応方法を実践できる。
- 子ども理解と関わり方の基礎となる発達心理学、教育心理学、教育原理、保育原理などの各理論を学び、保育に欠かせない基本の考え方を理解し、説明できる。
- 運動やリズム表現、造形表現、音楽表現を子どもに指導する基本的な考え方を理解し、基礎となる技法を身につける。
- 子どもの歌が歌えるレベルのピアノ技術の習得
- 指導案作成や連絡帳などを適切に記述できる日本語表現力の習得
- 動植物の生態に関する知識を持ち、動植物を適切に育てることができる。
- 季節に応じた日本の行事を知り、その意味を説明できる。
- 乳児保育や障害児保育、異文化理解教育の考え方を理解し、未入園児や発達支援を要する子ども、外国籍の子どもや親への対応を説明できる。

❺人間力と学び続ける姿勢の構築

（一般目標）

教員の人間性が人的環境として幼児に多大な影響を及ぼすという意味で、自律的かつ豊かな人間性を持ち、常にその人間性を磨き向上させるために努力しようとしている。

【自己省察と他者理解】

（到達目標）

- 自己肯定感を持つと同時に自分を客観的に見つめることができる。
- クラスメイトや教員、先輩、課外活動などで出会う他者とコミュニケーションをとろうとし、自分との距離が測れる。

【社会文化への興味関心】

（到達目標）

- 社会事象、季節の変化、異文化、自分の属しているサブカルチャーに興味関心を持ち、子どもの生活とのつながりを知る。

【自己管理力】

（到達目標）

- 食事の管理を含む体調管理ができる。
- 時間の意識を持ち、自分の行動に責任感を持つ。
- TPO に応じた言動がとれる。

【論理的思考力】

（到達目標）

- 主張が首尾一貫した文章を書くことができる。

- 日常会話を含め、自分の言いたいことを相手によらずわかりやすく伝えることができる。
- 他者の言いたいことを的確に理解することができる。

【生涯学習の視点】

（到達目標）

- 失敗や叱責を受けた点を素直に受け止め、そこから自己省察を行い、次の課題を見つけて努力できる。
- 自ら積極的主体的に行動しようという意欲を持ち、課外活動やボランティアなどにチャレンジする。

誰からも、どのような状況からも学ぶものがあるという意識をもって行動ができる。